

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第42回「鋳工業生産・出荷・在庫指数(速報) 2024年9月分」

今週は、10月31日に経済産業省から発表された「鋳工業生産・出荷・在庫指数(速報)」についてお伝えします。

～9月の鋳工業指数～

9月の鋳工業指数(季節調整済み)は「生産」が101.1、「出荷」が99.70、「在庫」が102.3「在庫率」は105.6となりました。「生産」は前月比+1.4%の上昇となりました。「生産」の上昇に寄与した業種としては、自動車工業、無機・有機化学工業、電気・情報通信工業などが挙げられます。

昨年末に発覚した自動車不正認証問題が、その後、他の会社でも確認され、自動車生産の停止が断続的に発生しました。さらに、8月には台風による工場稼働停止などの影響を受け、自動車工業などの生産が低下したため、鋳工業生産は一進一退の状況となりましたが、9月に入り自動車生産の回復やエアコンの増産などにより、「生産」指数は上昇しました。

「出荷」は前月比で+2.3%の上昇でした。自動車工業、鉄鋼・非鉄金属工業などの出荷が拡大したことで2か月ぶりの上昇となりました。「在庫」は前月比+0.1%とわずかですが2か月ぶりに上昇しました。「在庫」の上昇に寄与した業種としては、電子部品・デバイス工業、特に液晶パネル等が挙げられます。

「在庫率」は前月比-3.8%と2か月ぶりの低下となりました。低下に寄与した業種としては、鉄鋼・非鉄金属工業、生産用機械工業、自動車工業などが挙げられます。

～製造工業生産予測指数～

経済産業省では毎月初旬に主要製品のその月と翌月の生産計画を調査しています。今回は10月初旬に調査した10月と11月の生産計画の結果を反映した製造工業生産予測指数が発表されています。それによりますと、10月の生産指数(予測値)は前月比+8.3%の109.5、11月の生産指数(予測値)は前月比-3.7%の105.4%と予測されています。10月の生産予測の大きな上昇は半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置、プラスチック・金属加工機などを製造する生産用機械工業や車体・自動車部品、乗用車などを製造する輸送機械工業などによります。一方、11月の生産予測の低下は、10月の上昇に寄与した生産用機械工業や前月緩やかな伸びにとどまった電子部品・デバイス工業などの生産低下が要因となっています。

～今後の鋳工業生産指数の動きに注目～

この製造工業生産予測指数を加えたグラフが、裏面グラフ1です。このグラフは実線が鋳工業生産指数を、点線は製造工業生産予測指数の10,11月の動きを示しています。

このグラフを見ると、今後、鋳工業生産指数は年初からの停滞を脱し、上昇していく可能性があると考えています。年初からの自動車生産の停滞が解消されることや、低迷している中国経済が政府の景気テコ入れ策によって底入れが期待できることで、日本国内の製造工業全体が活性化すると想定しているからです。ただ、経済産業省によると生産計画は、しばしば上振れする傾向があり、暫くは一進一退の傾向を継続すると見込んでいます。今後、日本の製造業が停滞を脱するのかどうか注目しています。

グラフ

